

Change & Challenge

附属学校園が 目指していること

Vision ビジョン

地域に根差し、未来の学校教育を
創造する附属学校園 ― 伝統と変革 ―

Mission ミッション

- 大学・学部のもつ人的資源を活用して公立学校園とは異なる先導的・実験的な取り組みを行う「国の拠点校」としての機能を高める。
- 地域の教員の資質・能力の向上や教育活動の推進に寄与する「地域のモデル校」としての機能を高める。
- 附属学校園の組織改革を行い、附属学校園が掲げる教育研究課題を精錬するとともに、教員の待遇改善とその資質・能力の向上を図り、附属学校園としての教育研究機能の強化を図る。
- 大学との確固たる連携を図り、現代の教育課題に応える新たな教育研究の推進や教育実習の充実に取り組むとともに、附属学校園教員による大学教育の充実を図る。
- 学外教育機関や地域の公立学校園との連携を強化し、附属学校園のさらなる拡充を図る。

Value バリュー

2022 年度～ 2027 年度までの第 4 期中期計画・中期目標期間では、主に以下について重点的に取り組んでいます。

1. 全国や地域に寄与できる教育研究発表会の計画と実施
2. 福岡県内の教育委員会等との連携を図った教員研修体制の整備と実施
3. 大学と附属学校園の共同研究体制の整備と実施
4. 附属学校園教員による大学（学部）教育の充実

研究推進 + 教員育成

勤務管理・業務改善
(働きがい・働き方改革) を推進



幼児教育公開研究会



教育研究発表会(小学校)



教育研究発表会(中学校)



教育実習



授業づくり公開研①



授業づくり公開研②

附属学校園の 魅力(働きがい)と働き方

魅力

1

教員育成(教員養成・教員研修等)

✓ 自ら力量をつける学校園

教科指導、学校経営など、授業や教育を見つめ直し、教職としての専門性を高めます。

✓ 共に学び・高め合う学校園

- 附属教員、長期派遣研修員と共に学び、高め合います。
- 教育研究発表会などを通して、全国各地の教員と交流し、指導力の向上を図ります。
- 福岡教育大学と附属学校園の共同研究部会での学びの場や交流があります。
- 長期派遣研修員の研究に専念できる場をつくります。

✓ 未来の教員を養成する学校園

- 教育実習を担当します。

✓ 地域に貢献する学校園

- 教員研修や指導出張などを行い、地域に貢献します。
- 附属学校園での経験を地域に還元します。

魅力

2

研究推進×子供との学び

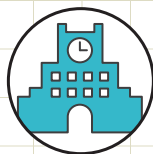
✓ 研究に専念できる環境

- 比較的少ない担当授業時数で、研究時間が確保されます。
- 教育研究に専念し、大学と連携して教育研究発表会などを行います。
- 九州や全国の附属学校園との交流(九附連、全附連)などがあります。
- 情報収集(出張等)の機会があります。
- 小学校は地区によって教科担任制を実施しています。
- 地域行事はありません。

✓ 附属学校園の伝統と子供たちとの学び

- 伝統の校風の中で、選抜された園児・児童・生徒との学びがあります。

福岡教育大学附属学校園との繋がり



大学



学生



他附属学校園



公立学校園



教育委員会

勤務管理・業務改善(働き方)

教育研究の推進や地域からの要望はありますが、積極的に働き方の改革を進めています。

✓ 勤務時間の適正化と業務改善

- 労働基準法に基づき、勤務時間の適正化と業務内容や方法の改善を各学校園で積極的に取り組んでいます(出退勤はタイムカードで管理)。勤務時間外に教職調整額に見合う以上の業務を行う場合、管理職に届け出を行い、超過勤務手当が支給されます。

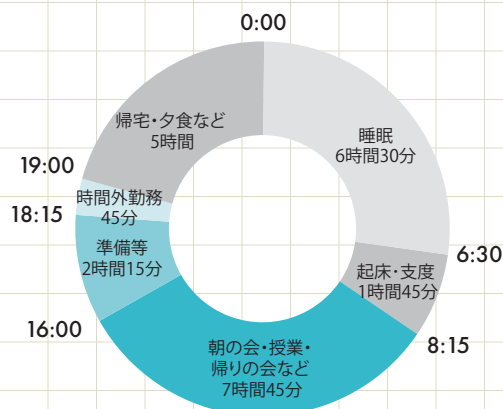
✓ 変形労働時間制

- 時期や業務内容によって、繁忙の差がありますが、6パターン(A～F)の勤務時間を設定して運用し、ワークライフバランスを推奨しています。

✓ 業務等改善例

- 勤務(在校)時間の徹底(最大20時までの退校を推奨)
- 教科担任制の導入
- 会議や朝礼等の効率化・複数担任制
- 校務支援システムの導入
- 校内研修方法の工夫改善
- 部活動週3日制の導入
- 長期派遣研修員の研修の効率化
- 学期制の工夫(久留米中:4学期制)
- 職場環境の改善

※各附属学校園によって異なる場合があります。詳細は、各附属学校園の取組や教員からの声を参照してください。



(例) 附属福岡小学校教員の一(変形労働時間制 B の場合)

附属学校園の概要

1 附属学校園の設置について

- 福岡県内に7つの学校・園があります。明治期以降に設立された歴史と伝統を有し、それぞれの学校・園の特色を生かしながら、国および地域に必要とされる教育研究および教員養成・研修等を展開しています。

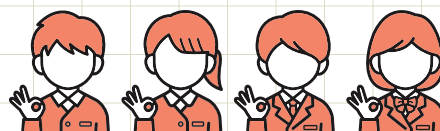
福岡市中央区…附属福岡小学校・附属福岡中学校
北九州市小倉北区…附属小倉小学校・附属小倉中学校
久留米市…附属久留米小学校・附属久留米中学校
宗像市…附属幼稚園



2 附属学校園の児童・生徒・園児について

- 附属小学校 定員 …………… 1 学年 **70** 人
(附属福岡小学校特別支援学級 8 人、帰国児童教育学級 15 人)
- 附属中学校 定員 …………… 1 学年 **120** 人
(附属福岡中学校特別支援学級 8 人)
- 附属幼稚園 定員 …………… 3 歳児 **20** 人
…………… 4 歳児 **35** 人
…………… 5 歳児 **35** 人

※児童・生徒・園児数の適正化について検討を進めています。



3 附属学校園の学級指導、教科指導について

- 附属小学校 1 学年 2 学級
(附属福岡小学校に特別支援学級、帰国児童学級を設置)
教科担任制により、空き時間で研究に専念できます。
- 附属中学校 1 学年 3 学級
(附属福岡中学校に特別支援学級を設置)
比較的少ない持ち時数で研究に専念できます。
- 各附属学校園での伝統行事や学級活動、総合的な学習の時間などが充実しています。
- 附属幼稚園 3 歳児、4 歳児、5 歳児 各 1 学級
預かり保育(受託保育事業者への委託運営)を始めました。

4 教育実習や教育研究発表会などについて

- 教育実習 観察実習、基礎実習、本実習、教育総合インターンシップ実習の一部など
- 各附属学校園は「国の拠点校」「地域のモデル校」として、今日的教育課題の解決を目指し、その研究成果を発信しています。
○文部科学省指定の開発研究、委託研究
○地域の若年教員向けの授業力向上の場の提供
○地元の教員向け各種研修(授業づくり公開研究会・研究発表会など)



5 附属学校園の教員構成、勤務について

- 【教員構成 (R6 年度から組織改編します)】
附属学校副部長(各地区統括担当)、校長(園長)、教頭(または主幹教諭)、教諭(栄養教諭、養護教諭を含む)
- 【勤 務】
附属小学校、附属中学校では1年単位の変形労働時間制を適用。
所定労働時間を1日10時間以内、1週間52時間以内とし、1年間における所定勤務時間を平均して1週間につき38時間45分となるように設定。業務と自己研鑽を明確化。



附属学校園の活動

カリキュラム・教育活動の充実

- 高い指導力と研究能力を兼ね備えた教員による組織的な取り組みで、特色あるカリキュラムの開発を行い、これからのグローバル化社会に生きる子どもたちの総合的な力を育てます。
- 複数の教員でのチーム・ティーチングによる経営の改善に努め、一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな教育を行います。
- 福岡教育大学の研究者による出前授業の中で、各教科等の第一線の知識に触れる機会を得ることができます。(年間10回程度)
- 文部科学省や県の開発研究や委嘱研究等を受けて、公立学校園では実施しにくい調査研究や先進的な教育にも取り組みます。
- 子供の生活基盤づくりに努め、学習と学校生活全体を有意義なものにするよう努めます。

研究成果の発信

- 福岡教育大学との共同研究プロジェクトを推進し、現代的な教育課題への対応策を打ち出します。
- 各附属学校園が定期的に研究発表会や実践研究会を開催し、日頃の教育研究活動の具体的な成果を公開します。
- 公立学校園からの相談や授業検討会等での指導・助言等を積極的に行い、県内の学校教育の質的向上に貢献します。

近年の文部科学省教育研究開発事業等の実績

事業名	学校名	課 題	期 間
教育課程特例校	附属福岡小学校	特別の教育課程を編成・実施する学校として指定	平成25～26年度 2013-2014
教育研究開発事業	附属福岡小学校	未来社会を創造する主体に必要な非認知能力を重視した資質・能力を育成するため、子供の文脈を中心に据えた7つの新教科の枠組みを構築する研究開発	平成27～令和4年度 2015-2022 令和5年度名目指定
委託事業	附属福岡中学校	学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業	平成29～令和元年度 2017-2019
委託事業	附属小倉小学校	道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業	平成28～令和元年度 2016-2019
委託事業	附属小倉小学校 附属小倉中学校	課題解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業における言語活動の充実に関する実践研究	平成27年度 2015
委託事業	附属小倉中学校	これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究	令和元～4年度 2019-2022
教育研究開発事業	附属久留米小学校	各教科等に生かすことのできる「情報編集力」の基礎を養うために、新教科「情報科」を新設し、指導内容や指導方法について明らかにする研究開発	平成24～27年度 2012-2015
情報通信技術を活用した教育振興事業「情報教育推進校（IE-School）」	附属久留米小学校	ICTを効果的に活用した教育の研究開発及び情報教育の推進に関わる調査研究	平成28年度 2016
教育課程特例校	附属久留米小学校	特別の教育課程を編成・実施する学校として指定（新教科「情報科」、「外国語科」を新設）	平成28～30年度 2016-2018
次世代の教育情報化推進事業	附属久留米小学校	情報活用能力の育成等に関する実践的調査研究	平成29～令和元年度 2017-2019

附属福岡小学校



【年間スケジュール】

4月	入学式、藤見会（新一年生歓迎会）
5月	アドベンチャー・スクール（5年生集団宿泊体験）
6月	授業づくりセミナー、長期派遣研修員中間報告会、教職大学院学習
9月	月見学芸会、教育実習
10月	あらつ大運動会、修学旅行、オープン・スクール
11月	あらつフェスタ
12月	持久走記録会、遠行会（鍛錬遠足）
2月	長期派遣研修員最終報告会、教育研究発表会
3月	卒業証書授与式

【教育研究の重点】

研究主題「持続可能な未来社会を創造する主体を育成するカリキュラム・マネジメント」を掲げ、多様化・複雑化する社会状況を主体的に生きるため、見方・考え方を働かせながら、多面的・多角的に思考したり、深い学びを求めて批判的に思考したりする態度の育成に重点を置いている。また魅力ある学校づくりのため、異学年交流活動や探究チャレンジ活動も研究している。

【働き方の改善】

小学校全学年教科担任制の実施と、教員の空き時間確保や均等化を実現している。また、連絡事項は電子掲示板の活用やメール配信により会議削減、ペーパーレス化を実施し、業務負担の軽減が実現できている。

【その他】

地域のモデル校として貢献できるよう、研究発表の他に講師派遣や視察等の要望にも応えている。

附属福岡中学校



【年間スケジュール】

4月	入学式、1学年体験学習
5月	体育会
6月	教職大学院実習、オープンスクール、長期派遣研修員中間報告会
7月	観劇会
8月	3学年夏季学習会
9月	教育実習
10月	教育実習、オープンスクール、2学年見学旅行
11月	文化発表会（合唱コン、総合学習発表会）、教育研究発表会
12月	遠行会
2月	長期派遣研修員最終報告会
3月	卒業証書授与式

【教育研究の重点】

研究主題「個と協働の学びが響き合う授業の創造」を掲げ、多様な考えを生かす学習サイクルを設定し、深い学びを具現化する学習活動の実践に取り組んできた。生徒が個別で課題解決する活動や仲間と対話しながら考えを練り上げていく活動を通して、生徒たちが議論し、他者の意見を尊重して最適解を判断する活動の充実に重点を置いている。さらに、生徒たちが議論をする際の効果的なICTの活用についても実践を重ねている。

【働き方の改善】

研修面について、内容の焦点化と精選に取り組みながら、全職員が見通しをもって推進できる体制づくりに努めている。電子掲示板を活用した職員間の連絡、ペーパーレス化等を実施し、会議時間等の縮減と効率的な業務の遂行に取り組んでいる。

【その他】

地域の教育活動に寄与できるよう、教育委員会や教育センター主催の研修講座、他校の研修会等への講師派遣依頼に応えている。

附属小倉小学校



【年間スケジュール】

4月	入学式
6月	長期派遣研修員中間報告会、教職大学院実習
7月	授業づくり公開研究会、オープンスクール
9月	教育実習
10月	教育実習、運動会、音楽のつどい、オープンスクール
12月	誘導の会（本校OB会）総会
1月	長期派遣研修員最終報告会
2月	教育研究発表会
3月	研究のまとめ、卒業証書授与式

【教育研究の重点】

「子どもが学びを愉しむ授業」をテーマに、子どもが問題解決に挑み、解決の過程や結果におもしろさや喜び等を感じる授業を目指して研究を進めている。

【働き方の改善】

- 在校時間の改善（原則午前7時以降の出校、残業指定日の割り振り、残業指定日における午後7時までの退校、業務と自己研鑽の明確化、P C入力による在校時間管理）
- 研修の行い方の改善（参加する研修の選択制、事前研・グループ別研修の実施、授業チェックシートによる成果と課題の見える化）

【その他】

- 自分たちの問題を自分たちで解決できるように、特別活動を重視した教育活動に取り組んでいる。

附属小倉中学校



【年間スケジュール】

4月	始業式 入学式
5月	体育大会
6月	長期派遣研修員中間報告会、教職大学院実習
9月	前期終業式、後期始業式、教育実習
10月	教育研究発表会、教育実習
11月	附中祭
2月	長期派遣研修員最終報告会
3月	卒業証書授与式、修了式、成果報告会

【教育研究の重点】

令和5年度の大学・三附属中学校共同研究発表会を経て、令和6年度以降は、研究主題を「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る授業づくりの研究（仮）」とし、I C T活用を位置づけた質の高い学習活動のあり方について研究を進める。

【働き方の改善】

- 部活動の改善（週あたり平日3日活動（18：00 完全下校）、土日はどちらかのみ）
- タブレットを活用した会議の推奨（ペーパーレスによる印刷業務の負担軽減）

【その他】

本校の教育目標「創造的実践人の育成」の実現に向けて、「体育大会」「附中祭」の二大行事を中心に据え、主体的かつ創造的にものごとに取り組むことができる生徒の育成に努めている。

附属久留米小学校



【年間スケジュール】

4月	入学式
5月	教育実習事前指導、示範授業
6月	教職大学院実習、授業づくりWS
7月	林間学校、長期派遣研修員中間報告会
9月	教育実習、附小サークル
10月	教育実習、運動会、5年生宿泊体験学習
11月	修学旅行、音読集会、青麦スポーツフェスタ
12月	持久走記録会
1月	どんと焼き
2月	研究発表会、長期派遣研修員最終報告会
3月	卒業証書授与式

【教育研究の重点】

令和5年度は「豊かな次代を切り拓く子供を育てる学習指導」の研究を継続し（3年次）、スタディ・ログを用いた自己調整的な学びの具体化に取り組んでいる。授業づくりで特に重視しているのは、問題解決の過程に位置付けた「学習としての評価活動」である。

- つかみ具合を評価する活動：目標や見通しの把握の具合について
- 進み具合を評価する活動：考えや表現の再構成の具合について
- 伸び具合を評価する活動：目標の達成や効力感の具合について

【働き方の改善】

業務の改善、適正化を「働きやすさと働きがいの創出」という観点から図り、在校等時間の縮減に取り組んでいる。具体的には、クラウドを活用した業務のスリム化と情報の共有化、年次に捉われない業務の均等化、研修会に係る負担の軽減等を積極的に推進している。

【その他】※ 本校教育の基盤となる活動

- よりよい人間関係の形成を促す気持ちのよい挨拶の励行
- 責任遂行の素地となる経験を培う「もくもく掃除」の徹底
- 一日を振り返り、自己を見つめる「生活記録」の積み上げ

附属久留米中学校



【年間スケジュール】

Ⅰ期（4月～6月）	
●入学式	●対面式 ●歓迎遠足 ●生徒総会
●体育祭	●教育相談（全員） ●梅雨休み ●教職大学院実習
Ⅱ期（7月～9月）	
●PTAレク	●教育実習 ●長期派遣研修員中間報告会
●自然体験学習	●藤見会 ●夏休み ●秋休み
Ⅲ期（10月～12月）	
●文化祭	●生徒会選挙 ●研究発表会 ●歴史体験学習 ●冬休み
Ⅳ期（1月～3月）	
●附中入試	●教育相談（全員） ●長期派遣研修員最終報告会
●卒業証書授与式	●卒業生をおくる会 ●春休み

【教育研究の重点】

今年度から研究テーマ「AⅠ時代を切り拓く『人間らしさ』をはぐくむ学習活動」とし、AⅠと人間が互いの強みを生かしながら共生していく豊かな感性と柔軟な思考で新たな価値を創出していく新たな研究を各教科等で追究している。

【働き方の改善】

- 授業研事前検討会の回数削減（複数回→1回（50分）のみ）
- 部活動の平日3日のみで勤務時間内での実施（16:55終了）
- 毎日19:30を目途に退勤及び毎月2回の定時退校の完全実施
- タブレット端末を活用した職員会議数の削減
- 計画年休の取得

【その他】

- カリキュラムマネジメントの一つとして、道徳科と学級活動を関連付けた「道学サイクル」を行っている。
- 適宜学級の担当者を入れ替える「学級全員担任制」を行っている。
- 日頃から地域の公立学校等へ赴き指導講師として貢献している。
- 年間4回のオンライン授業日を設定している。

附属幼稚園

附属幼稚園



【年間スケジュール】

4月	預かり保育開始（業者委託）、入園式
5月	歓迎遠足、園庭開放開始、公開研究保育週間
6月	プール開き、親子ふれあいデー、幼小接続研
7月	プール納め、夕涼み会、交通安全教室
9月	教育実習、教職大学院実習、運動会
10月	教育実習、地震避難・引き取り訓練
11月	幼児教育公開研究会、附属小倉小との交流
12月	PTA もちつき大会、お楽しみ会
1月	宗像市内小学校との交流
2月	生活発表会「城山劇場」、みんなありがとう会
3月	修了証書授与式

【教育研究の重点】

コロナ禍でも、幼児教育の本質を見失わないように保育に取り組んできたが、様々な制限による幼児への影響は小さくない。そこで、「安心して自己を発揮する幼児を育む保育」を研究主題に掲げ、キラリタイムやキラリンシートを開発した。今後は、幼児の姿の見取りと一人一人の変容を検証することで、環境の構成や援助の工夫について研究を深めていく。

【働き方の改善】

- キラリタイムの設定により、毎日定時に保育記録を作成。
- 事例検討会も毎週1回定時に実施。行事や業務のスリム化による負担軽減も徹底。

【その他】

小5～中3の「うきうき Teacher!」を本園で実施。

幼児・児童・生徒数（令和5年5月1日現在）

児童数

		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	特別支援 学級	帰国子女 学級	合計
附属福岡小学校	学級数	2	2	2	2	2	2	3	3	18
	児童数	70	72	73	69	72	71	14	6	447
附属小倉小学校	学級数	2	2	2	2	2	2	—	—	12
	児童数	70	68	71	70	68	69	—	—	416
附属久留米小学校	学級数	2	2	2	2	2	2	—	—	12
	児童数	70	70	71	70	70	69	—	—	420
合計	学級数	6	6	6	6	6	6	3	3	42
	児童数	210	210	215	209	210	209	14	6	1,283

生徒数

		1学年	2学年	3学年	特別支 援学級	合計
附属福岡中学校	学級数	3	3	3	3	12
	生徒数	120	118	117	10	365
附属小倉中学校	学級数	3	3	3	—	9
	生徒数	120	120	120	—	360
附属久留米中学校	学級数	3	3	3	—	9
	生徒数	120	119	119	—	358
合計	学級数	9	9	9	3	30
	生徒数	360	357	356	10	1,083

幼児数

		3歳児	4歳児	5歳児	合計
附属幼稚園	幼児数	13	7	21	41

■ 附属福岡小学校 木川 航太

附属学校に着任して、教科担任制、空き時間の確保、カリキュラムデザイン、深い見識を基にした指導案審議や教科部会など、整った環境の中で研修に励むことができていると日々実感している。その中で児童観や授業観を捉え直すことができ、教科の専門性を高めているところである。今後も附属学校の一員として研修に励んでいきたい。

■ 附属福岡小学校 小島 恵太

私が感じている本校の一番の魅力は「チーム力」です。各教科の専門性の高い同僚とともに学び合い、みんなで同じ目標に向かって働くことができます。学校全体の雰囲気もよく、研究室での職員間の何気ない会話までも勉強になります。また年々勤務管理・業務改善が進んでおり、ワークライフバランスを実現することもできています。



附属福岡
小学校



附属小倉
小学校

■ 附属小倉小学校 松岡 かおり

附属小倉小学校へ赴任させていただき、「学びを愉しむ」をテーマに子どもの思いや実態を大切にした授業づくりを目指して、日々研究と実践を重ねられることに喜びを感じています。また、教育実習では、「教師になりたい。」という熱い思いをもった学生へ授業づくりや学級経営について指導していく中で、教員養成の面からもやりがいを感じています。

■ 附属小倉小学校 本田 龍一郎

附属小倉小学校では、誘導論という教育理念の下、同じように高い熱量をもった教員集団と、日々子どもの姿で語り合っています。勤務時間や分掌内容が整理されているので、毎日の我が子の送迎をしつつも、計画的に研鑽を深めることができます。3年目となりますが、授業づくりや子ども理解について、よりよく学びたいという当初の思いが叶っています。

Teachers

教員

■ 附属久留米小学校 野中 大輔

本校に赴任して以来、自らの勉強不足を痛感し、授業づくりの奥深さに思い悩む日々の連続です。しかし、本校の質の高い研修、そして同年次や先輩の先生方との出会いは、自らのキャリア形成においてかけがえのないものになることを確信しています。今後も附属学校の四つの使命を全うすることができるよう、研修に励んでいく所存です。

■ 附属久留米小学校 安永 亮

附属久留米小学校で働く大きな魅力の一つは、価値観が広がるということです。それは、久留米小には各教科等の本質を大事にする伝統があり、専門性の高い先生方に学ぶ機会も多く、ものごとを多角的に考えることができるようになるからです。現在、質を落とさない効率的な働き方も進んでおり、充実した教員生活をおくることができます。



附属久留米
小学校



附属
幼稚園

■ 附属幼稚園 櫻井 みずき

幼稚園教諭に求められる、個に応じる力や、その場に応じて、臨機応変に物事を判断する力は、養護教諭の資質・能力と通じるところがあり、先生方の日々の姿から養護教諭としても、多くのことを学んでいます。

また、チーム一丸となって、全職員で子どもたちを見守る温かい園の雰囲気、アットホームで働きやすい職場環境につながっているように感じます。

■ 附属福岡中学校 柚木 大樹

附属福岡中学校での日々は、「出会い」に恵まれた毎日だと感じています。所属地区の異なる先生方、様々な研修でお会いする方々、未来の教職を志す教育実習生…すべての「出会い」が、これまでの自分自身を省みて、教師としてのあるべき姿を考えるきっかけとなっています。これからも多くの「出会い」を大切にしていきたいです。

■ 附属福岡中学校 井上 雅弘

附属福岡中学校に赴任して、一番の魅力は自分の授業を見つめ直すことのできる点だと考えています。家庭科の視点からだけでなく、他教科の視点からも授業に関して助言をいただく機会が多くあり、授業に関する見識が広がりました。また、福岡市だけでなく、福岡県の先生方と共に働くことができることも大きな魅力です。



附属福岡
中学校



附属小倉
中学校

■ 附属小倉中学校 猪谷 亘

附属小倉中学校に赴任して、学習指導の研究がとても勉強になっています。校内の先生方に留まらず、三附属中学校や OB の先生方からも御意見や御指導をいただけることが附属学校の魅力です。また、自分とは異なる教科の先生方の研究に触れることで、自分一人では気づかなかった新たな視点や考えを得ることができています。

■ 附属小倉中学校 北里 陽一

附属中学校の魅力は、多くの「出会い」があることです。同僚の先生とは、教科の本質や指導方法を学ぶことができ、大学教授からは先進的な理論を学ぶことができます。また、県外の附属中学校の先生とは、最新の動向等を共有することができ、将来の教育を担う学部生等からは、実習を通して自分の原点を見つめることができます。こうした「出会い」は、自分の成長に繋がると確信しています。

の 声 Interview

■ 附属久留米中学校 中島 小春

本校の働き方も近年さらに見直され、無理のない環境で研究を進めることができ、私生活も大切にしたい働き方ができています。

求めれば求めるだけ自分に返ってくる学びが多く、忙しい中にも教師としての力が高まっているという実感と充実感があり、附属久留米中学校は学びたい教師に最適な環境であると思います。

今後も学ぶ楽しさを忘れず、研修に励んでいきたい。

■ 附属久留米中学校 管原 康起

本校では、自分のすべての教科・領域について深く学ぶことができ、すぐに子どもたちに還元できることが大きな魅力です。

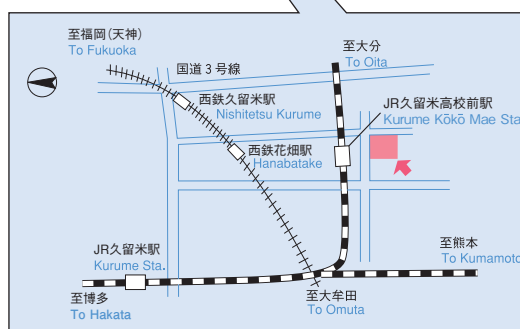
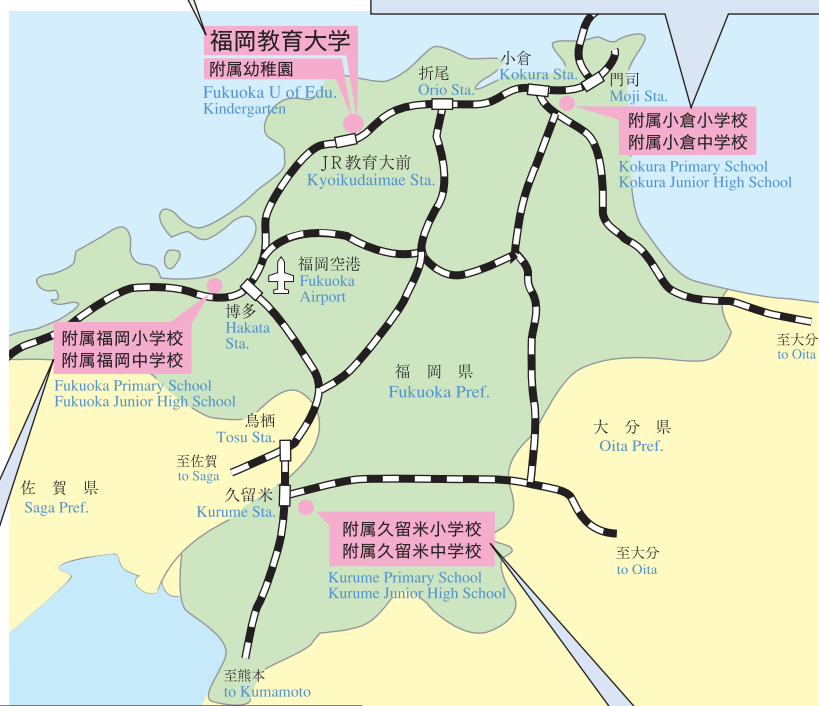
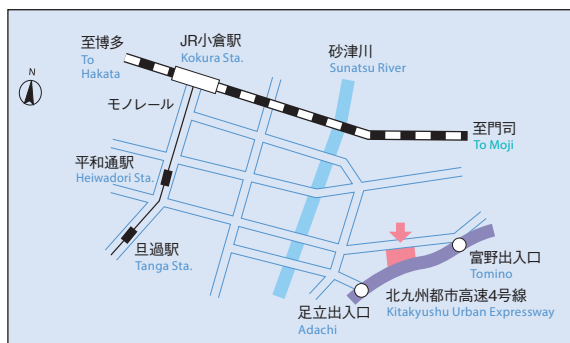
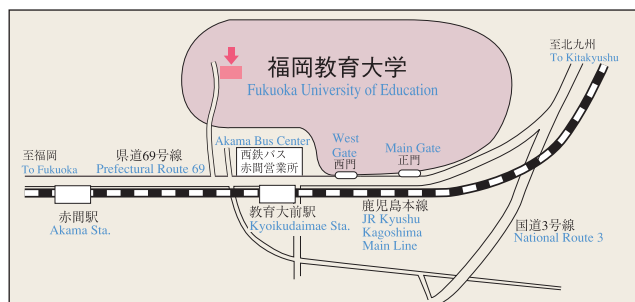
学校行事等についても、生徒と職員が一丸となり、創り上げていくことにやりがいを感じられます。近年、働き方改革も進んでおり、業務についての量的、時間的な見直しが行われ、働きやすい職場環境が整ってきています。



附属久留米
中学校

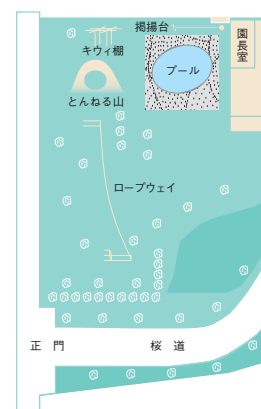


位置図

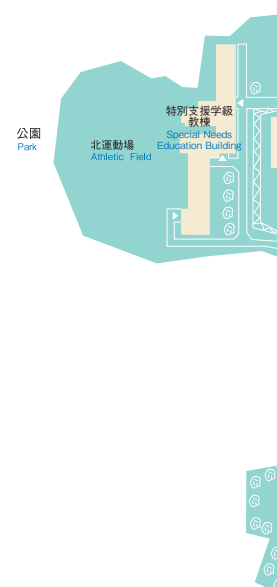


配置図

附属幼稚園

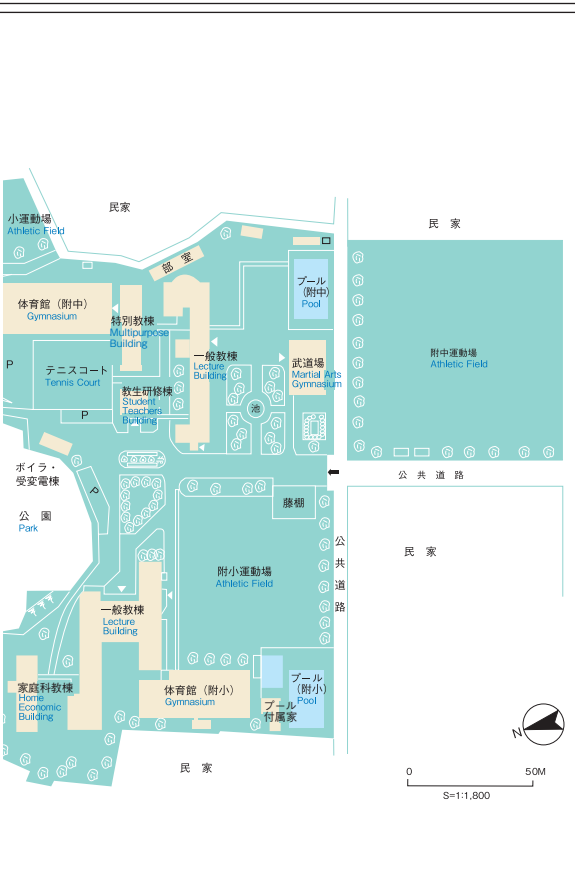
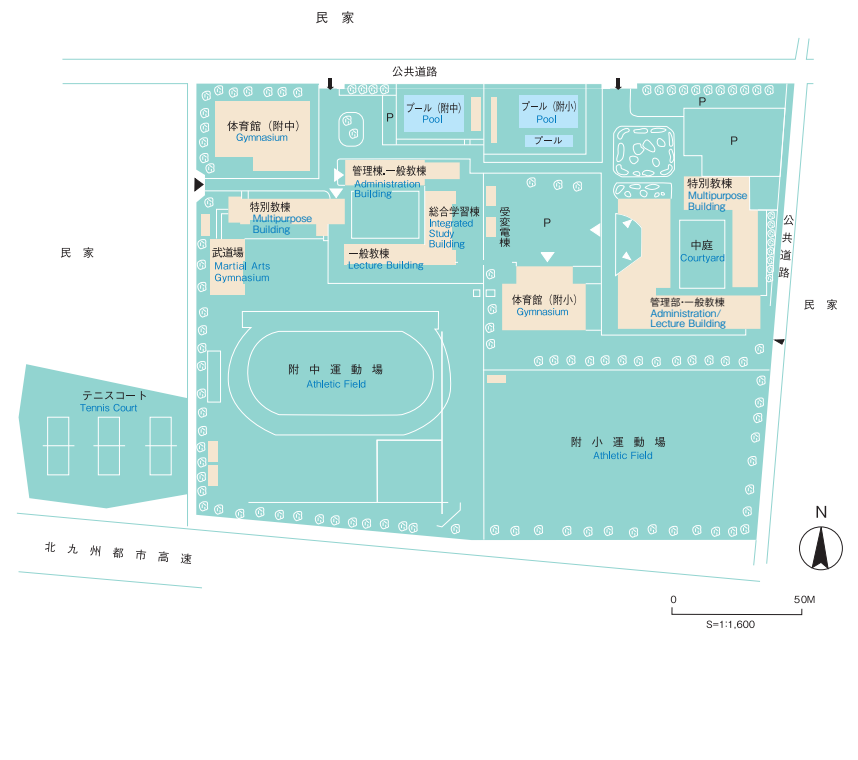


附属福岡小・中学校

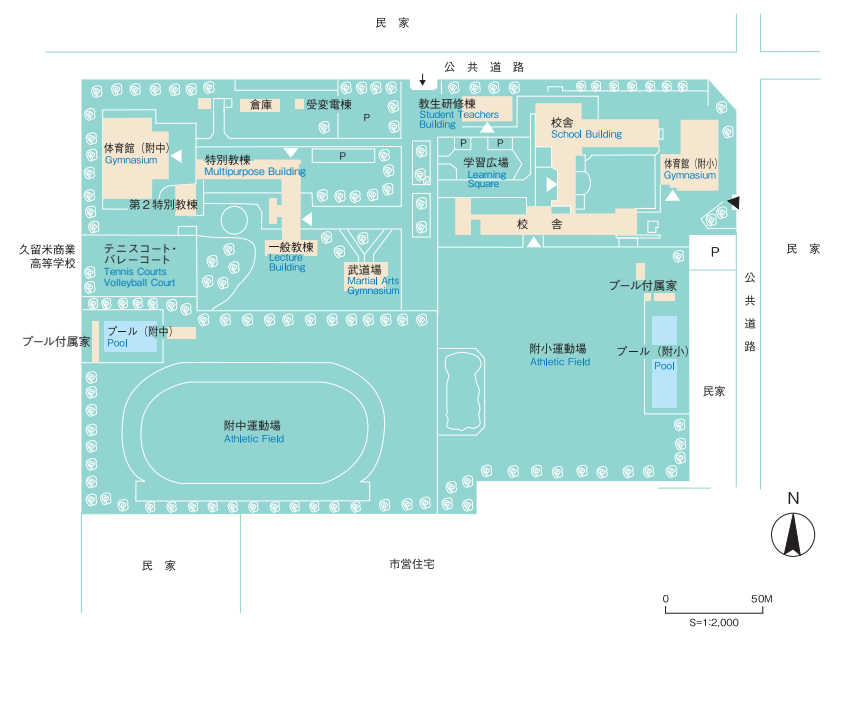




附属小倉小・中学校



附属久留米小・中学校



福岡教育大学附属学校園

編集・発行

国立大学法人福岡教育大学附属学校課

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1-1 TEL : (0940)35-1261

福岡教育大学ホームページにも、各附属学校園の紹介が掲載されています。
ぜひご覧ください。

<https://www.fukuoka-edu.ac.jp/center/about.html>

